

「姓と名、どっちが先」

先日、二人の卒業生から成績証明書を作ってほしいという依頼を受けた。二人とも都が募集する海外留学に応募して合格。来年度、長期の留学をするそうだ。コロナ禍の中、海外渡航が難しくなっているが、困難なことにも立ち向かって海外で学びたいという向上心や成長意欲の高さを感じる。語学の勉強としてはもちろん、海外の文化を学び、将来、グローバル化する社会の中で活躍してくれることを期待する。

さて、その成績証明書だが、留学先の学校に提出することも考えて、英文のものである。とはいえ、分かりやすく、下に小さく日本語表記されている。中学校での成績や出欠状況、学校の住所、さらに校長のサインが求められている。ここで問題となるのは、校長のサインだ。私が学生時代に習った頃のローマ字表記では、Yukio Suzuki というように名－姓のように書くとされていた。ところが、最近の英語の教科書によると、普段使っている順番と同じく、姓－名になっている。どちらが正解なのか。

ネットで調べると、1年前に文化庁がローマ字での氏名表記について国の指針を出していて、今年からオリンピック開催までの間に国の公文書などは「姓－名」の順番に統一していき、今後学校のローマ字教育でも「姓－名」の指導に順次切り替わっていくそうだ。日本の氏名は、「姓＝ファミリーネーム」に続き「名＝ファーストネーム」である。実はこの並びを使っている国はとても少なく、中国や韓国、ベトナムなどのアジアの数国と東欧のハンガリーのみ。日本がローマ字表記を「名－姓」と入れ替えたのは、欧米化を進める明治時代に、日本語の並びより世界で大多数の国が採用している「名－姓」の並びを採用することで、海外とのスムーズなコミュニケーションを重視したものらしい。ただローマ字表記の氏名を変更しているのは、日本のみで、「姓－名」の並びを使っている他の国は、母国語での並びをそのまま使っている。

ちなみに、日本では通常、「鈴木さん」というように人の名前を呼ぶときは「姓」の方を使って言い合う。「名」の方を使って呼び合うときは、同じ姓の人が複数いるときか、かなり親しい仲のときとってしまう。一方、海外ではファーストネームである「名」の方を使って呼び合う。それも文化の違いなのか。

10月21日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 右の表は、2種類の製品A、Bをそれぞれ1個作るのに必要な材料と1個売ったときの利益である。今、280gある材料を残らず用いて、製品AとBをともに作るとき、2万円以上の利益を得るには、製品Bを最大何個まで作ることができるか。

	製品A	製品B
材料	5 g	7 g
利益	400 円	490 円